

今回は読売新聞からの抜粋記事を含めた認定便りです。

「遺伝性」により治療方法が変わってくる。そんな時代に突入してきたのだと考えさせられます。

遺伝性の乳がん患者について、日本乳癌学会はがんになっていない側の乳房の予防切除を「強く推奨する」と診療指針を改訂すると発表した。

米国の人気女優、アンジェリーナ・ジョリーさんのように未発症での両乳房の切除については、本人の意思に基づき「弱く推奨する」にとどまった。

ジョリーさんが未発症の時点で、両側の乳房と卵管、卵巣を切除したと公表し、日本でも関心が高まった。ただ、未発症の予防切除は発症リスクを低減する効果は明らかになっているが、生存率への効果は明確になっていない。そのため、今回は強い推奨には至らなかった。

予防切除は希望する患者も少なくないが、今回の改訂で「強く推奨」とされたものでさえ保険が利かず、全額自己負担となる。発症していない状態での手術に関しては、美容整形や健康診断と同じような扱いという判断なのではないでしょうか？どちらにしても一日も早く保険適用を含め、費用面での問題が解決することを願います。